

1 単元名 テニピンでラリーゲームを楽しもう

2 単元の目標

- テニピンの行い方を知るとともに、用具を使ってボールを返球したり、ボールを打ちやすい場所に体を移動したりして、ラリーゲームをすることができる。(知識及び技能)
- ラリーを続けるために、ボールを打ち返すための方法や打ちやすい場所などについて考えるとともに、考えたことを友達に伝えたり、友達からの気付きを自分の動きにいかしたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力)
- 練習やゲームに進んで取り組み、ルールを守り、友達と仲良く運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めることができる。(学びに向かう力・人間性)

3 基盤

○教材について

「テニピン」は攻守一体型のネット型ゲームである。テニピンの教材としての特徴は主に以下の3つである。

1つ目は、ボール操作のしやすさである。手にはめて打てるラケットを使ったり、自作の「段ボールラケット」を使ったりすることにより、手のひらに近い感覚でボール操作を行うことができる。ボールはスポンジボールを使用するため、跳ねすぎたり、スピードが出すぎたりせず、打球コントロールがしやすくなっている。初めて用具を操作してボールゲームをする児童には適した教材であると言える。

2つ目は、全員に球を打つ機会が保障されているということである。体育授業のボール運動では基本的に団体競技がメインだったが、テニピンはダブルス、またはシングルスでゲームを行う。そうすると、運動の得意、不得意に関わらず、ボールを操作する機会が全員に均等に保障される。また、ダブルスの場合も、交互に打ち返さなければならないため、どの児童もボールに触れることができる。ボール操作やボールを持たないときの動きを学ぶ上で、一人一人の活動の機会が保障されているため、全員が問題意識をもって学習に向かうことができると考える。

3つ目は、ルールや場の工夫がしやすいということである。児童の実態によって、ボールの2バウンド後の球を打つことを認めたり、コートをフリーにして、ラリーを続けることに専念させたりなど、児童に思考させながらゲームを展開していくことも可能になる。

本単元では、これらの特徴を生かしながら、ラリーを続ける楽しさを味わえるようにし、「仲間が打ちやすい場所に移動する」「仲間が打ちやすいボールを打つ」などの技能を身につけながら、中学年でのボール競技につなげていきたい。

4 授業の実際

視点1 なりたい姿をイメージし、自他の課題や変容の自覚を促す「単元構成と授業構成」の追究

- テニピンの映像を見せることで、競技のプレイイメージをもたせる。
- スキルアップタイムを毎時間アップとして行うことで、各自の技能を高める。
- ラリーゲームとすることで、ゲームの楽しさをどの子にも無理なく味わわせる。

視点2 なりたい姿に向かう「基礎感覚や基礎技能を高めしていくための手立



て」の追究

○「できた」を味わわせるために、到達目標を小さくして、段階的に指導する。

○授業時間だけでなく、休み時間にもラケットやボールにふれることができる機会を保障する。

○各自のスキルアップタイムを取り入れ、できた者をみんなの前でほめたり紹介したりして、意欲を高める。

視点3 になりたい姿に近づくための「主体的・対話的で深い学び」の追究

○チームでの話し合いの際に、ワークシートを利用する。

○作戦タイムを設け、チーム同士の動きを振り返り、確認したり修正したりできるようにする。

○打ち方のコツや動き方などを全体の前で紹介し、共有することで、誰もが動き方のイメージをもつことができるようにする。



5 成果と課題

○2年生という発達段階において、「ラケットを操作して打つ」と言うことは難しく、技能に大きな差があった。なかなかラリーが続くことはなかったが、練習をし、時間を重ねるごとに上達をしていることがよく分かり、子どもたちも積極的にプレーをすることが多くなっていった。

今回、「二人一組」というルールと、「交互に打つ」という二つのルールは、誰もがプレーに参加するという意味でもとてもよかったと感じている。

特に、苦手な児童が全く触らないでゲームを終える、というようなことは全くなかったことで、とてもよかったと感じている。最初は、失敗した人に文句を言ったり、非難したりする姿も見られたが、うまくいくチームの姿を紹介したり、アドバイスの様子を教えたりしているうちに、そんな行動や言動がなくなっていった。また、「30回続くと、ボーナス点50点」というルールも、子どもたちの目標となり、何回かクリアするチームが出てきていた。

○課題としては、ラケットを用いた競技は初めてで、習熟するのにかなり時間を要することだった。8時間で組んだが、この時間内に上達もしくは習熟することが難しい児童も何人かいた。普段、どうしても休み時間に遊びながら練習するというスペース等もないことから、体育の時間のみの練習となってしまう。そのため、上達のやや遅い子が、躓く姿を多く見かけた。もう少し時間をさいて、練習できればもっとうまくなり、ラリーが続くであろうと思えた。3年時にも、このような形で取り組めたら、大きく成長できると思えた。カリキュラムの組み方に工夫がいると感じた。

